

自由研究発表タイトルおよび発表要旨一覧

	第1室 (第1会議室)	第2室 (第2会議室)	第3室 (第3会議室)	第4室 (第4会議室)	第5室 (K203)
13:40 ～ 14:10	ESDと英語教育－代替案の 思考力を育むための試み－ 中沢 敏浩	前置詞学習における認知意 味論的指導の一考察 (1) － 前置詞 at, in, on に焦点を 当てて－ 安原 千尋	日本, 韓国, 中国英語教科 書比較－学習単元の構成を 中心に－ 樋口 慎一	日本(式)英語には閉鎖音/m, b, p, tがない?－音響的分 析に基づく考察－ 山田 純	留学前後における日本人学 習者のリスニング方略使用 の変化 山内 優佳
14:15 ～ 14:45	中学校前半における自由会 話の指導 山岡 大基	英語 I におけるスキーマの 活性化を目指した指導の具 体化とその有効性に関する 研究 浅井 智雄	中学校の英語教科書に見ら れるイベントスキーマと文 型 能登原祥之	Graded Readers 版文学作 品のCDを使用したリスニ ング－大学生英語学習者に 及ぼす効果－ 小野 章 山内 勝弘	高校生の英語語彙学習方略 に関する研究 赤瀬 正樹 上西 幸治
14:50 ～ 15:20	速読力を育てる指導法につ いて 淀川 幸子	談話構造の概念マップを用 いた読解指導の効果につ いて 吉留 文男	英語の知識言語化と社会の 機能的分化の進行が与える 日本の英語教育への影響 柳瀬 陽介	反復ディクテーション演習 によるリスニング・ワーキ ングメモリ増強について 松岡 博信	学習意欲に働きかける学習 方法の与え方に関する研究 池上 真人 青木 信之 渡辺 智恵
15:25 ～ 15:55	卒業期における小中連携の 意義と実践－アルファベッ ト導入の在り方を例として － 渡部 靖徳		Continua of fluency seen in L2 learners' use of non-lexical/lexical pauses in a repeated task 中村 英子	外国語単語記憶における語 長効果についての検討 竹野純一郎 玉井 健 高塚 成信	ライティング活動に關与す る要因について (1) －課 題の難易度の認知と自己効 力感の關係を通して－ 藤居 真路
16:00 ～ 16:30	Swan, M (2006)からの示唆 宮迫 靖静		Exploring features of discourse and identity through conversation analysis イエン ナカムラ		The Immediate and Long-Term Effects of Explicit and Implicit Classroom Interventions Kenneth Fordyce

第1室（第1会議室）

	発表タイトル	発表要旨
13:40~14:10	ESD と英語教育—代替案の思考力を育むための試み— 中沢 敏浩（広島県立広島国泰寺高等学校）	「国連続可能な開発のための教育の10年」の実施計画の育みたい力の一つに、「代替案の思考力」がある。本論では、そのための試みを英語Ⅰの授業中に行い、その実践の様子とアンケート調査の結果を報告する。
14:15~14:45	中学校前半における自由会話の指導 山岡 大基（広島大学附属福山中・高等学校）	中学校において英語で話す力を育成する指導について、初期段階での取り組みについて報告する。日常の授業での帯活動を基本として、与えられた表現の練習にとどまらず生徒自身にとってリアリティのある会話を目指す。
14:50~15:20	速読力を育てる指導法について 淀川 幸子（尾道東高等学校（広島大学大学院））	ある国公立大学附属中学校にて、昨年度アクションリサーチ実習で行った速読指導について発表する。高校入試を間近に控えた中学三年生を対象に、速読力を育てる指導法の開発をすることを目的とした。
15:25~15:55	卒業期における小中連携の意義と実践 —アルファベット導入の在り方を例として— 渡部 靖徳（周南市立桜木小学校）	中学校入学直後の指導で一番労力を費やすのがアルファベットの文字指導である。その文字指導のいくらかを小学校卒業期に行い、小中で連携し学習できないか。スムーズな文字学習の導入について授業実践を通して検証したい。
16:00~16:30	Swan, M (2006)からの示唆 宮迫 靖静（岡山県立岡山南高等学校）	CLT, TBL, SLA を批判してきた Swan, M は、伝統的な英語指導法の擁護者である。この発表では、Swan, M (2006)が提案するインプットとアウトプットのバランスのとれた英語指導法を紹介し、学校教育における英語指導の改善に関して考察する。

第2室（第2会議室）

	発表タイトル	発表要旨
13:40~14:10	前置詞学習における認知意味論的指導の一考察 (1) ー前置詞 at, in, on に焦点を当ててー 安原 千尋 (安田女子大学大学院)	本調査では、大学1年生を対象にテストを実施し、イメージ・スキーマやコア・ミーニング、辞書的な意味の提示による指導をする3グループを比較し、イメージ・スキーマやコア・ミーニングが前置詞 at, in, on の習得に対して、有効か否かを調査した。
14:15~14:45	英語 I におけるスキーマの活性化を目指した指導の具体化とその有効性に関する研究 浅井 智雄 (広島県立広島皆実高等学校)	学習者の英語学力構成要因の深部にまで踏み込んだ指導をする場合、スキーマ理論が大いに参考になる。本研究では、内容スキーマと形式スキーマの活性化を目指した系統的指導を試みたとともに、その有効性を多肢選択式問題により検証した。その結果、テキスト理解に関わるいくつかの要因において、系統的指導の有効性を確認した。
14:50~15:20	談話構造の概念マップを用いた読解指導の効果について 吉留 文男 (大島商船高等専門学校)	説明文の読解指導において、談話構造の概念マップを用いた明示的な指導をおこなった。事後テストの結果、実験群において変容の推移が確認された。読解方略としての概念マップ活用について報告する。

第3室（第3会議室）

	発表タイトル	発表要旨
13:40~14:10	日本，韓国，中国英語教科書比較 —学習単元の構成を中心に— 樋口 慎一（岡山県備前市立片上高等学校）	本研究は，日本，韓国，中国の中学生用英語教科書を比較するという手段を通じて，教育現場でなされる授業の差異を考えるという一連の研究の中の，特に教科書内の学習単元構成に着目をして比較を行ったものである。
14:15~14:45	中学校の英語教科書に見られるイベントスキーマと文型 能登原祥之（比治山大学）	中学校の英語教科書をイベントスキーマと文型（Radden & Dirven, 2007）の視点で記述する。そして，同様に行った学習者コーパスの調査結果（拙論，2010）と比較し，中学校の英語教科書が学習者の発表語彙に与える影響を明らかにしていく。
14:50~15:20	英語の知識言語化と社会の機能的分化の進行が与える日本の英語教育への影響 柳瀬 陽介（広島大学）	【問題設定】英語教育は急激なメディア進化に対応する必要がある。【方法】オングのメディア論，ルーマンの社会分化論による分析を行う。【結論】英語の「知識言語」化と現代社会の機能的分化は巨大な複合性をもたらしている。
15:25~15:55	Continua of fluency seen in L2 learners' use of non-lexical/lexical pauses in a repeated task 中村 英子（ランカスター大学大学院）	Continua of fluency are demonstrated by the shift of pauses, from unfilled/filled pauses to lexical hesitations, and then to lexical pauses in L2 learners' oral language through task repetition.
16:00~16:30	Exploring features of discourse and identity through conversation analysis イエン ナカムラ（岡山大学）	In second language conversations, the relationship between speakers may move from expert/novice to co-participants. Transcribed examples reveal how identities are displayed in the way(s) they talk.

第4室（第4会議室）

	発表タイトル	発表要旨
13:40~14:10	<p>日本(式)英語には閉鎖音/m, b, p, tがない？ ー音響的分析に基づく考察ー</p> <p style="text-align: right;">山田 純（広島大学）</p>	<p>本研究は、日本語の/m, b, p, tの特徴に基づき、日本式英語がそれらをどのくらい反映しているかを音響分析によって検討し、英語教育におけるこれらの発音指導に示唆を提供することを目的としている。</p>
14:15~14:45	<p>Graded Readers 版文学作品のCDを使用したリスニング ー大学生英語学習者に及ぼす効果ー</p> <p style="text-align: right;">小野 章（広島大学） 山内 勝弘（広島大学大学院）</p>	<p>Penguin Readers のCDを用いた週1回10分のリスニングを、大学生に対し5週間にわたって実施した。その効果を、(1)リスニング力の向上と、(2) Graded Readers を聴くことに対する反応の面から考察する。</p>
14:50~15:20	<p>反復ディクテーション演習によるリスニング・ワーキングメモリ増強について</p> <p style="text-align: right;">松岡 博信（安田女子大学）</p>	<p>WBT 教材による反復ディクテーション演習の実際と、その活動を通してのリスニングスパンの伸長およびワーキングメモリ増強の可能性を、学習者ログの解析の結果にもとづいて報告する。</p>
15:25~15:55	<p>外国語単語記銘における語長効果についての検討</p> <p style="text-align: right;">竹野純一郎（中国短期大学） 玉井 健（神戸市外国語大学） 高塚 成信（岡山大学）</p>	<p>本研究は、ワーキングメモリモデルの音韻ループに見られる「語長効果」について再検討を試みたものである。研究結果は、復唱速度の説明に加え、注意喚起を促す項目の示差性による説明の必要性があることを示した。</p>

第5室 (K203)

	発表タイトル	発表要旨
13:40~14:10	留学前後における日本人学習者のリスニング方略使用の変化 山内 優佳 (広島大学大学院)	本研究では、学生が使用するリスニング方略の内、メタ認知方略と認知方略が留学の前後でどのように変化するかについて調査を行う。分析の結果、留学前よりもメタ認知方略を頻繁に使用する傾向が見られた。
14:15~14:45	高校生の英語語彙学習方略に関する研究 赤瀬 正樹 (長野県赤穂高等学校) 上西 幸治 (摂南大学)	本研究では、高校の英語学習者が持つ語彙レベルに応じてどのような語彙学習方略が表出するのかを検証する。因子分析を通じて、各語彙レベルにおける学習者の方略を明らかにし、その使用の変化について考察を深める。
14:50~15:20	学習意欲に働きかける学習方法の与え方に関する研究 池上 真人 (松山大学) 青木 信之 (広島市立大学) 渡辺 智恵 (広島市立大学)	本研究の目的は、どのような学習者がどのような学習方法をやりたいと思うのか、またどんな要素が学習者のやる気を左右するのかを明らかにすることである。本発表では、インタビュー調査に基づく調査結果について報告をする。
15:25~15:55	ライティング活動に関与する要因について (1) —課題の難易度の認知と自己効力感の関係を通して— 藤居 真路 (広島県立大門高等学校)	本発表では、ライティングの動機づけメカニズムを解明する手掛かりを得るため、高校2年生を対象に、和文英訳と定義説明の課題を用いて、課題の難易度の認知と自己効力感との関係等を検討した結果を発表する。
16:00~16:30	The Immediate and Long-Term Effects of Explicit and Implicit Classroom Interventions Kenneth Fordyce (Hiroshima University)	This study focused on Japanese EFL learners' (n = 81) use of epistemic stance forms as a mitigation device in writing. The explicit intervention was clearly more effective than the implicit intervention both in the short- and long-term.